

ジュニア科学クラブ 7

★★

夏休みの天体観察

今回は、夏休みに注目の星座や天体をプラネタリウムで見てください。また、観察のポイントなどもお話します。

月の観察はいつすればいい？

月の形や見える時間帯は毎日変わります。今年の満ち欠けの様子は図1のとおりです。7月25日が新月ですので、月末から細い三日月が見え始め、8月1日が上弦の月(半月)、9日(土)が満月です。この中で、観察しやすい夕方から夜9時ころに見えるのは、三日月から満月すぎの形の時ですので、7月末から8月10日ころが観察のチャンスです。

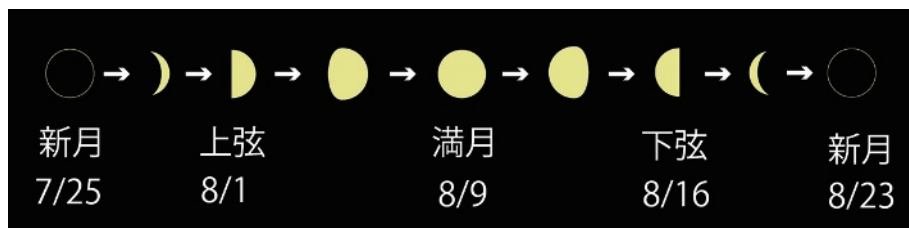


図1:2025年7～8月の月の満ち欠け

流れ星見えるかな？

毎年8月13日ころに、ペルセウス座^{りゅうせいぐん}流星群の活動がピークを迎えます。流星群は、ある期間だけ流れ星が多く流れる現象で、今年のペルセウス座流星群のチャンスは8月12日の夜10時頃から13日の明け方です。空の暗い^{ていど}場所で1時間に30個程度、明るい場所では1時間に5個程度くらい見えるかもしれません。12日の前後の夜にもチャンスがありますので、あわせてチャレンジしてみてください。

明け方に見える惑星にも注目

今年の夏は、明け方の空にも注目です。東の空に金星が、南の空には土星が見えています。そして、8月になると木星も加わり、特に8月11～13日の明け方は、金星と木星がすぐそばに並んで見えます(図2)。しかも、何日か続けて観察してみると、二つの星の並びが少しずつ変わっていくようすもわかります。また、8月12日の夜から13日の明け方は、月と土星が並んで光るようすも見えます。

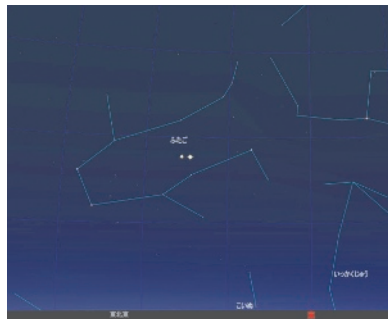


図2:8月12日の朝4時の東の空。ふたご座で光る、向かって右側が金星、左側が木星。(テラナビゲータ9で作成)

見ごろは早朝^{そうちよう}3時から4時頃です。ちょっと早起きしてみてもいいでしょうか。

観察のための準備をしよう

天体観察を行うときは、しっかりと予定を立てて準備^{じゆん び}をしましょう。科学館の『こよみハンドブック』には、観察の方法や、月や星座、天体のデータが書かれていますので、参考にしてください。

かず つぐと(科学館学芸員)

7月20日(日) 9:45 ~ 11:30

◆集合:研修室(地下1階) 9:30~9:45の間に来てください

◆内容:

9:45~10:10 朝のお話・ホールに移動

10:10~10:45 プラネタリウム「夏休みの天体観察」見学

10:45~11:30 企画展「極限時空・ブラックホールと重力波」見学

・途中からは入れません。ちこくしないように来てください。

・プラネタリウムは、一般の方と一緒に見学していただけます。ご家族の方も、観覧券をご購入のうえご覧いただけます(※満席の場合はご覧いただけません)。



※科学館の最新情報は科学館公式ホームページにてご確認ください。